

氏名（国内所属校）： 森下 理奈（尾道市立土堂小学校）
現地勤務先：カンボジア、バタンバン州小学校教員養成校

広がる音楽

カンボジアに来て、1年と半年が過ぎました。

青年海外協力隊員として「図工・音楽・体育への支援活動」を行うため、バタンバン州小学校教員養成校に派遣されていますが、実際には学校の環境整備など、様々な理由により活動の中心となるこれら三教科の授業が行えない状況があります。授業が思い通りにできず、協力隊員としての活動意欲を失いかけることもよくありました。

でも、うれしいこともありました。最近の“うれしかった場面”を振り返ってみました。

太い指で、慣れない“ドレミ”と一生懸命格闘する男子学生。

休憩時間に音楽室にきて、キーボードを楽しそうに弾く学生と、それに合わせて太鼓やタンバリンを鳴らし始める学生や小学生。



“ドレミ”と一生懸命格闘する男子学生



休憩時間の音楽室の様子

休憩時間に外でカンボジアの曲を吹く学生と、彼を囲んでにこにこ聞いている学生たち。

「家に持って帰って練習してもいいですか？」と言いにきて、うれしそうに鍵盤ハーモニカを持って帰る学生。

「リコーダーが吹けるようになりたい」と言ってきてくれた30代の男の先生。 - 毎日夕方になると学校のベンチに集まって吹いています。 -

首都プノンペンの音楽会に行き、初めて他校の小学生やマーチングバンド、弦楽団の演奏を聴く音楽クラブの子どもたち。 - 真剣な瞳です。自分たちが演奏したことのある曲が始まると、私の方をちらっと見て微笑んでいました。 -



学校のベンチでリコーダーを練習する先生



首都ハノイの音楽会の様子

ゲストハウスの部屋で合奏を始める子どもたち。

- 引率してくれた音楽が好きな先生が、カンボジアの曲を教えているところです。子どもたちは先生の指を見て弾きながら、その場で1曲覚えます。 -



ゲストハウスで合奏する子どもたち

毎朝行われる国旗掲揚・国歌斉唱で国歌を演奏する子どもたち。 - これに触発された先生が主旋律を弾くようになり、現在、子どもたちは伴奏を弾いています。 -

新学期やクリスマスには全校生徒の前で合奏を披露。それを聴いて、音楽クラブに入部してくる子どもたち。 - 10月は7人だった部員が、12月には30人近くになりました。 -

先輩部員から伝えられる音楽。



国歌を演奏する子どもたち



全校生徒の前で合奏を披露する子どもたち



先輩から指導を受けている部員

私自身はもともと音楽が好きで、音楽のよさや大切さはわかっているつもりでした。でも、カンボジアに住んでみて、今のカンボジアでは、「音楽教育の支援よりも、道路・水道の整備や医療面での支援の方が優先されるべきなのでは。」と時々思うようになりました。でも、先日、鍵盤のメロディーに誘われて集まる大人たちの輪のなかで、得意そうに覚えたての曲を弾く子どもたちを見て、やっぱり音楽っていいな、と思いました。子どもや学生の人生のなかに音楽が入りつつあること、町に音楽が広がりつつあることが、今はとても嬉しいです。